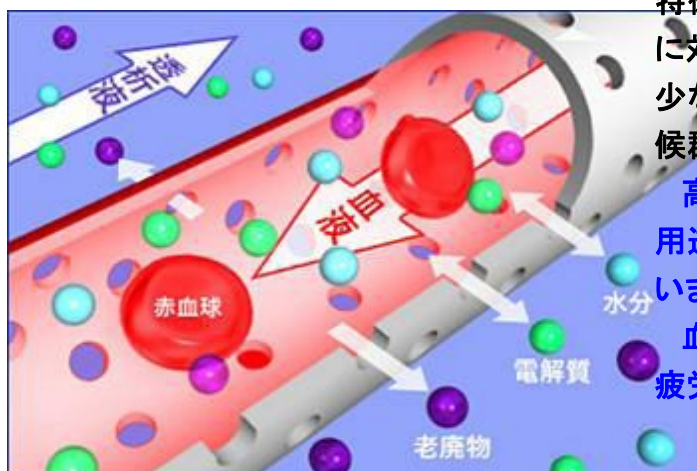


## 透析液について

血液透析に使用する透析液は、濃い透析液をきれいな水で薄めて使用しています。通常、透析液は1人に1回120～150Lを必要とします。このようにして作成された透析液は正常な血液に近い濃度の電解質を含んでおり、主に下記の成分からなります(ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クロール、重炭酸、ブドウ糖)。

慢性腎不全では、血液中のカリウム、マグネシウム、リン濃度が高くなり、カルシウム、重炭酸濃度が低くなってきます。通常、透析液では血液よりカリウム、マグネシウム濃度を低くし、リンは含まなくすることでこれらを血液から除去し、カルシウム、重炭酸濃度を高くすることで血液に補給しています。(カルシウム濃度については、服用薬剤により血液の方で高くなる場合があります。その時は、カルシウム濃度の低い透析液を使用することがあります。)



通常の透析液には、**酢酸**が含まれていません。

酢酸を添加してある目的は、透析液中の

pH (酸性・アルカリ性) の調整するためです。また、殺菌作用によって菌が繁殖するのを防ぎます。

身体に酢酸がはいることによる悪影響もあります。

1. 酢酸には末梢血管拡張作用や心機能抑制作用などがあり、血圧が低下しやすい。
2. 肝機能の低下があると、酢酸が代謝しきれない酢酸不耐症を呈することがあります。

特に高齢者や糖尿病患者は代謝機能も低下しているので注意が必要です。

(酢酸不耐症・・・血中酢酸濃度の上昇による透析中の血圧低下、頭痛、嘔気、嘔吐などの不均衡症候群)

3. エントキシンと同様に炎症反応を起こす物質(炎症性サイトカイン)を誘導します。

このような理由から最近、無酢酸透析という方法が考えだされました。

透析液にまったく酢酸を含んでないため酢酸を負荷しない治療が可能となってきました。特徴として、血圧低下などによる透析困難症に対し効果があり、血行動態への影響が少なく、心機能抑制がありません。不均衡症候群が現れにくいとも言われています。

高橋クリニックでも、一部の患者さんに個人用透析装置を使用して、無酢酸透析を行っています。

血圧低下の改善、頭痛の改善、透析後の疲労感の改善がみられています。